

# 高知県長期漁海況予報

## 平成24年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成24年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成24年1月から6月を予測期間とした「平成23年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況

黒潮：都井岬沖では、3月までは小蛇行が持続するため離岸傾向で推移する。3月～4月に小蛇行が東進し、4月以降は接岸傾向となる。足摺岬沖～室戸岬沖では、12月後半～1月前半に小蛇行の一部が東進するのに伴い離岸傾向となる。足摺岬沖～室戸岬沖では、3月～4月に都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い離岸傾向になる。小蛇行が通過した後は、接岸傾向となる。

沿岸水温：「平年並」～「低め」で推移する。

#### 漁況

サバ類： 前年を下回る

マアジ： 前年を上回る

マイワシ： 前年並から上回る

ウルメイワシ： 前年を上回る

カタクチイワシ： 前年並

シラス： 前年並から上回る

\* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

# 海 況

## 【海況の経過（平成23年7月～11月）】

### 1 黒潮

足摺岬沖では、7月中旬に「やや離岸」した他は、概ね11月上旬まで「接岸」傾向が継続しました。11月中旬になると離岸しはじめ、11月末現在、「著しく離岸」しています。

室戸岬沖では、7月中旬に「やや離岸」した他は、10月上旬まで「接岸」傾向が継続しました。10月中旬から11月上旬にかけて「やや離岸」した後、11月上旬に一時的に「接岸」し、11月末現在、「やや離岸」しています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ「接岸」～「著しく離岸」で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25 、 <45
かなり離岸	45 、 <65
著しく離岸	65

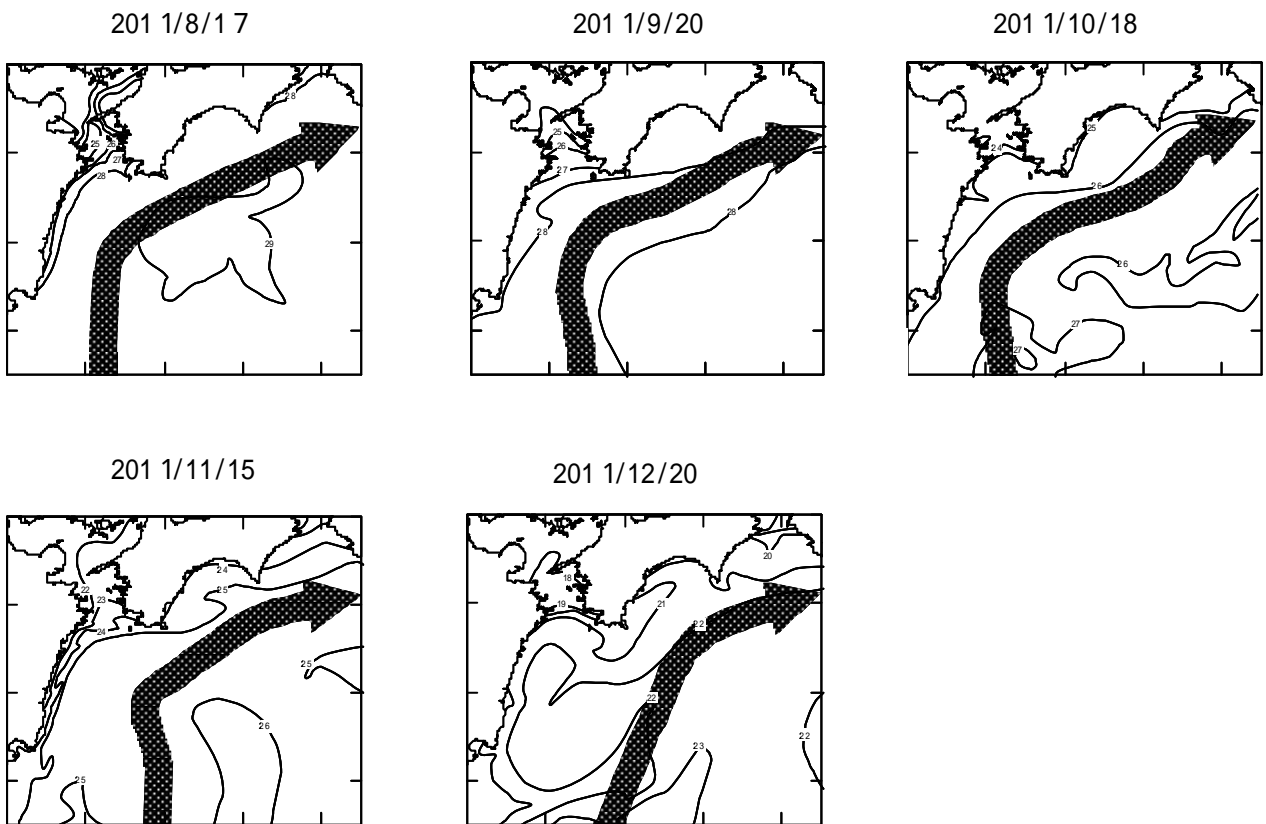


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

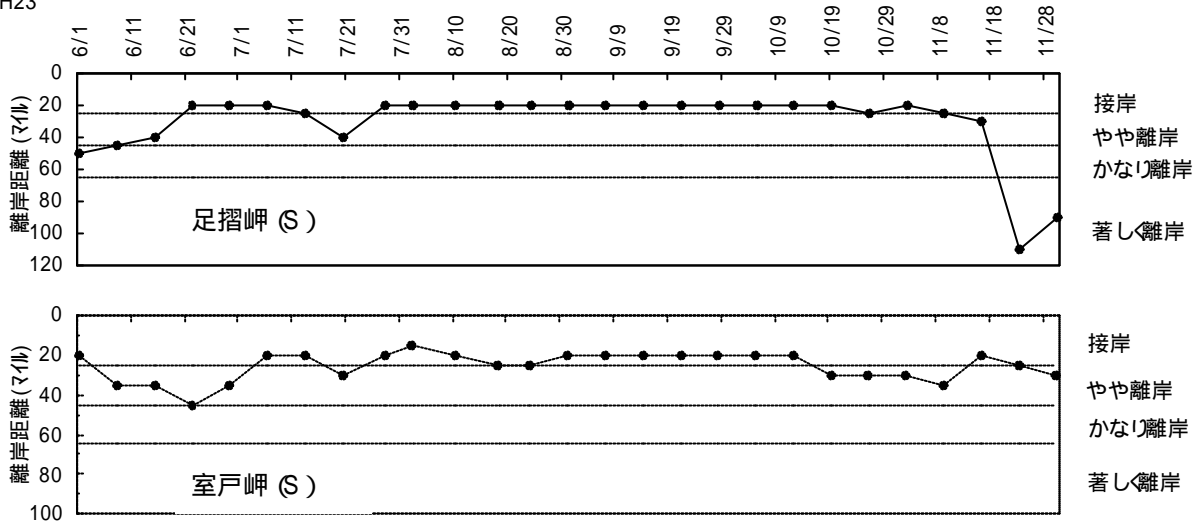


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

## 2 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温の概況は、7月および8月が「平年並み」、9月が「著しく高め」、10月が「やや高め」、11月が「かなり高め」でした。観測層に注目すると、7月は全層で「平年並み」、8月は50m層で「やや低め」であった他は「平年並み」でした。9月は0m層で「やや低め」であった他は、「著しく高め」でした。10月は0m層および200m層で「平年並み」、50m層で「やや高め」、100m層で「かなり高め」でした。11月は、0m層で「やや高め」、50m層および200m層で「かなり高め」、100m層で「著しく高め」でした。

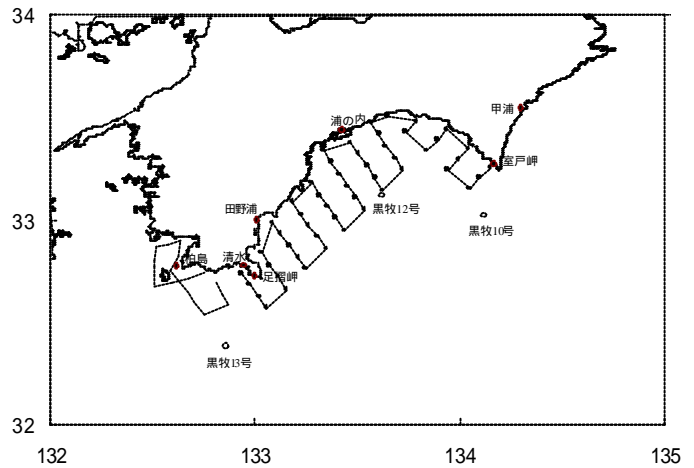


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成23年7月	+ -	- +	- +	+ -
平成23年8月	- +	-	+ -	- +
平成23年9月	-	+++	+++	+++
平成23年10月	+ -	+	++	+ -
平成23年11月	+	++	+++	++

### 3 特異現象

#### 海況

- ・沿岸定線観測において、9月の50m層、100m層、200m層の水温が過去2番目の高水温を記録しました。また、11月の100m層の水温が過去最高の水温を記録しました。（1975年以降、欠測年あり）

#### 漁況

- ・宿毛湾の中型まき網でウルメイワシ好漁（平年比292%）
- ・ゴマサバ釣り不漁（平年比37%）
- ・10月のヨコワ曳縄漁が好漁

#### 【今後の見通し（平成24年1～6月）】

##### 1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、4月前半まではN型基調で推移し、4月後半以降はB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：都井岬沖では、3月までは小蛇行が持続するため離岸傾向で推移します。3月～4月に小蛇行が東進し、4月以降は接岸傾向となる見込みです。

足摺岬沖～室戸岬沖では、12月後半～1月前半に小蛇行の一部が東進するのに伴い、離岸傾向となる見込みです。また、3月～4月に都井岬からの小蛇行の東進に伴い、離岸傾向となり、小蛇行が通過した後は、接岸傾向となる見込みです。

##### （根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

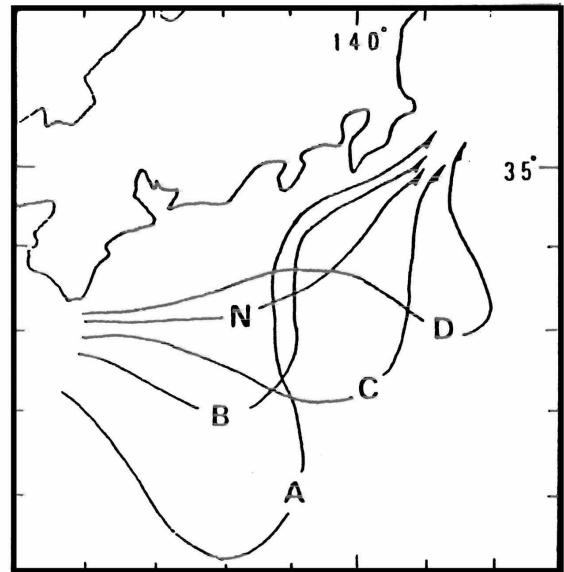


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

##### 2 沿岸の水温

「平年並」から「低め」で推移する見込みです。

##### （根拠）

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」（11月24日発表、予報期間12～2月）によると、期間中の平均気温は「平年並」から「低め」となっています。

# 漁 況

## Ⅰ サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成23年8～11月）】

### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は796.5トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年比106%、平年比(以下、平年とは平成11年から平成20年の10年間の平均値を示します)88%でした。漁獲の主体は尾叉長21～30cmのゴマサバでした。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は84.2トンで、前年比109%、平年比131%であった。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバですが、西部の一部海域ではマサバが多く漁獲された場所もありました。
- (3) 釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は149.7トンで、前年比66%、平年比38%でした。土佐清水を主とする魚体測定の結果、漁獲の大半はゴマサバで、前年同様3歳魚(平成19年生まれ)以上のものが大半を占めました。

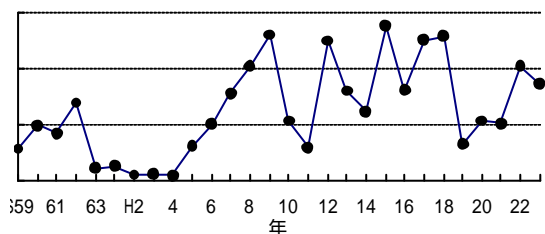


図 サバ類漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

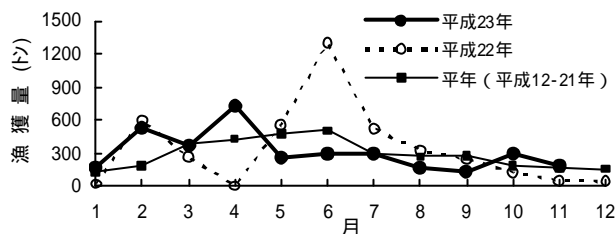


図 サバ類月別漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

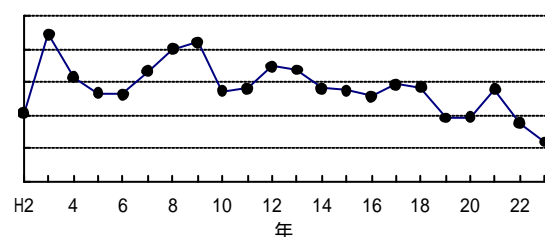


図 サバ類漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り)

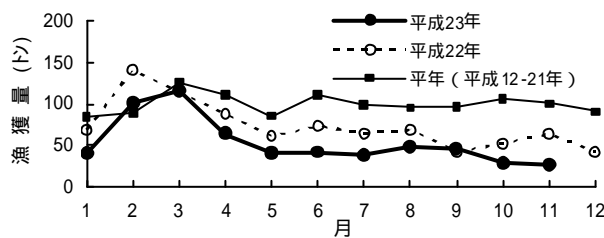


図 サバ類月別漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り)

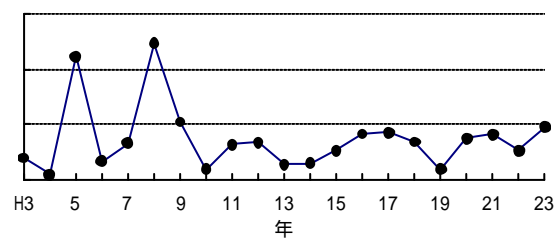


図 サバ類漁獲量の推移(窪津・椎名：大型定置網)

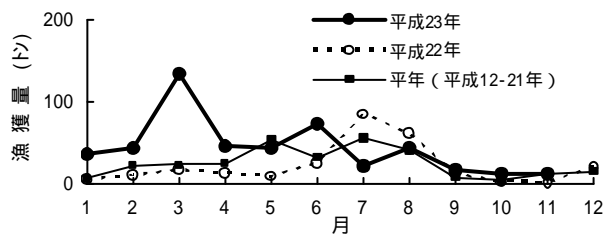


図 サバ類月別漁獲量の推移(窪津・椎名：大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県:日向灘のまき網による8~11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に2,208トンで、前年比38%、  
平年比61%でした。

愛媛県:豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8~11月の総漁獲量は1,424ト  
ンで前年比102%、平年比94%でした。

和歌山県:紀伊水道外域の2そうまき網による7~11月の総漁獲量はゴマサバ主体に2,310トンで、  
前年比63%、平年比117%でした。

### 【漁況予測(平成24年1~6月)】

(1)漁獲対象:1歳魚(平成23年生まれ)、2歳魚(平成22年生まれ)、3歳魚(平成21年生まれ)

(2)来遊水準:

- ・ゴマサバ:1歳魚、2歳魚は前年を下回り、3歳魚は前年を上回ります。全体としては、前年を下回ると考えられます。
- ・マサバ:低水準で推移し、前年並から下回る見込みです。

(参考)前年(平成23年)1~6月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網:2,361.8トン

定置網(窪津・椎名合計):219.0トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計):403.7トン

説明:

ゴマサバ:ゴマサバ太平洋系群の平成23年の資源の水準は「高位」、動向は「横ばい」と評価されています。近年の生まれ年ごとの水準は、1、2、3歳(平成22、21、20年生まれ)の順に高く、高知県全体で漁獲されるゴマサバの主体となる1、2歳魚は前年を下回ると予想されます。一方、3歳魚は前年を上回ると予想され、まとまった来遊が期待されます。

マサバ:マサバ太平洋系群の平成23年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されていますが、平成23年2~4月に定置網を中心にまとまった来遊がありました。この原因は沿岸域の低水温と考えられました。予測期間中のマサバ来遊は、マサバ太平洋系群の資源水準に大きな変化はないため、海況の良かった前年を下回ります。ただし、沿岸水温は前年並~低めと予想されているため、海況が好転すれば、来遊量が前年並になる場合もあると考えられます。

## II マアジ

### 【漁況経過（平成23年8～11月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は420.0トンで、前年比179%、平年比91%でした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が27.2トンで、前年比45%、平年比28%でした。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は392.8トンで、前年比225%、平年比108%でした。体長測定から、0歳魚（平成23年生まれ）が漁獲の主体であったと考えられました。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は172.5トンで、前年比196%、平年比174%でした。体長測定から、0歳魚（平成23年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられました。

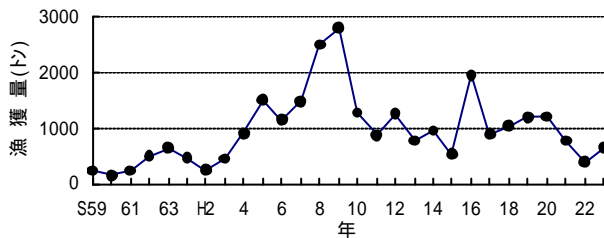


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

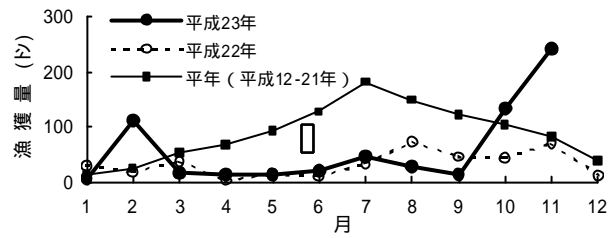


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

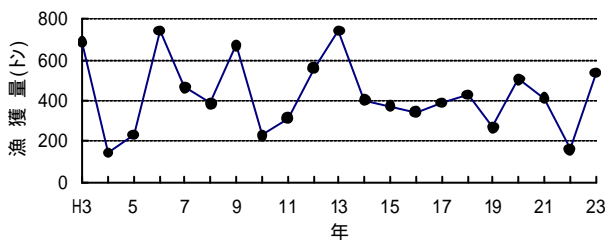


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

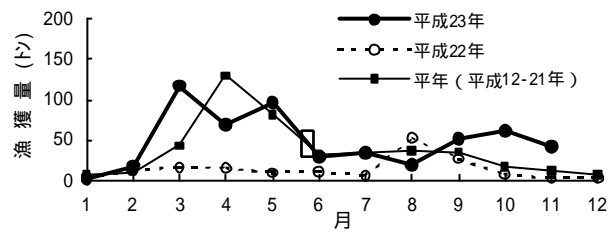


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は1,250トンで、前年比573%、平年比260%でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,295トンで、前年比127%、平年比69%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による7～11月の漁獲量は、469トンで、前年比119%、平年比50%でした。

### 【漁況予測（平成24年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（平成24年生まれ）、1歳魚（平成23年生まれ）主体。

(2)来遊水準：宿毛湾、土佐湾以東ともに前年を上回ると考えられます。

(参考)前年(平成23年)1~6月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：183.4トン

定置網(窪津・椎名合計)：331.8トン

説明：

マアジ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向にあります。本県の平成22年上半期におけるマアジの来遊は低水準でしたが、下半期になって今期の主体となる1歳魚(平成23年生まれ)が高い水準で来遊してきました。予測期間の後半には0歳魚(平成24年生まれ)も来遊すると考えられますが、これらはまだ生まれていないため、その水準はわかりません。以上のことから、全体として前年を上回る来遊と考えられます。

### III マイワシ

【漁況経過(平成23年8~11月)】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は135.2トンで、前年比177%、平年比19%でした。9月の魚体は体長15cm台の0歳魚でした。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は6.7トンで、前年157%、平年比37%でした。8月は体長11cm台、10、11月には15cm台に加えて19cm台も漁獲されており、0歳魚主体に1歳以上がまじる漁であったと推定されました。



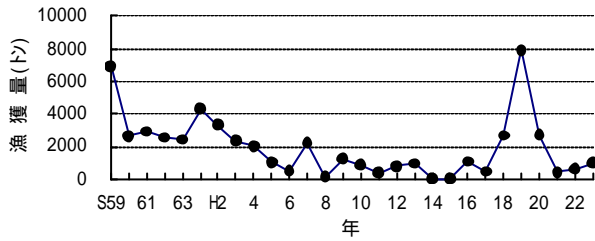


図 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

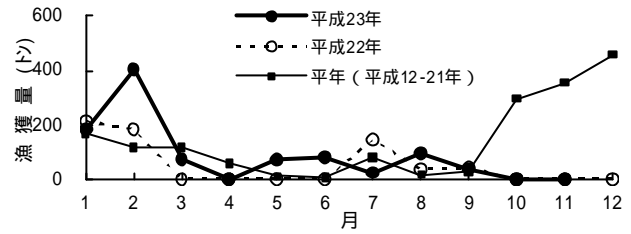


図 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

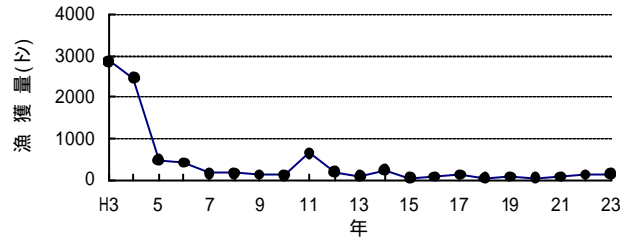


図 マイワシ漁獲量の推移（宍津・椎名：大型定置網）

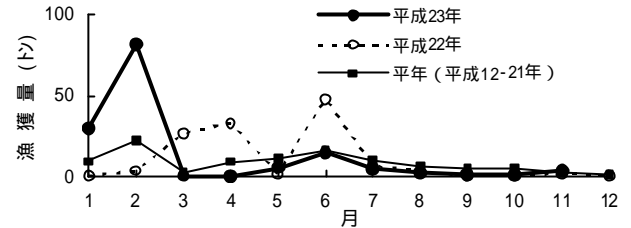


図 マイワシ月別漁獲量の推移（宍津・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月における総漁獲量は134トンで、前年（0トン）を上回り  
 平年比77%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では水揚げがなく、前年（0.6トン）と同じく不漁でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による8～11月の総漁獲量は31.7トンで、  
 前年比262%、平年比21%でした。

### 【漁況予測（平成24年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：1歳魚（平成23年生まれ）主体で、予測期間の後半には0歳魚（平成24年生まれ）も漁獲されます。
- (2) 来遊水準：前年並みから上回ると考えられます。

（参考）前年（平成23年）1～6月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：821.3トン

定置網（宍津・加領郷・椎名合計）：131.6トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源水準は低位、動向は増加傾向にあります。本県も含めた西日本各地では、今期の漁獲主体となる1歳魚（平成23年生まれ）の来遊水準は高いと考えられます。予測期間の後半には0歳魚（平成24年生まれ）も来遊しますが、その水準は現時点では分かりません。

これらのことから、前年並から上回る来遊と考えられます。

#### IV カタクチイワシ

##### 【漁況経過（平成23年8～11月）】

##### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は629.3トンで、前年比659%、平年比422%でした。銘柄別では幼魚「ドロ」が14.0トンで、前年比18%、平年比58%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は615.3トンで、前年比3,134%、平年比493%でした。体長10～11cm台が主体に漁獲されていました。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は7.3トンで、前年比2,144%、平年比221%でした。

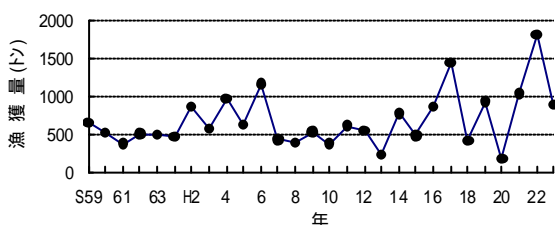


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

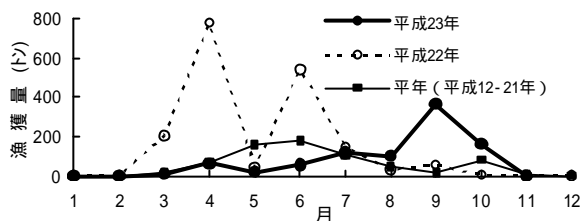


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

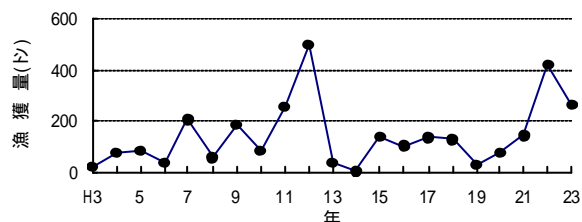


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

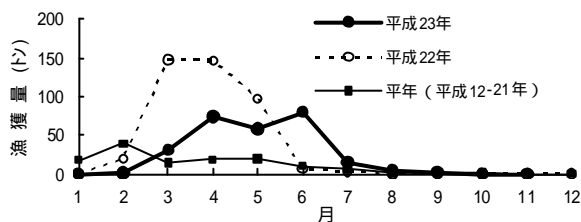


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は539トンで、前年比505%、平年比50%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,489トンで前年比390%、平年比128%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

##### 【漁況予測（平成24年1～6月）】

(1) 漁獲対象：1歳魚（平成23年生まれ）および2歳魚（平成22年生まれ）

(2) 来遊水準：前年並の来遊と考えられます。

(参考) 前年(平成23年)1~6月のカタクチイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：146.9トン

定置網(窪津・加領郷・椎名合計)：243.4トン

説明：

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は中位、動向は横ばい傾向にあります。近県および房総海域以北の漁況から、今期は2歳魚(平成22年生まれ)の東からの来遊が期待できず、前年並の来遊水準となることが予測されます。

## V ウルメイワシ

【漁況経過(平成23年8~11月)】

### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は2,421.1トンで、前年比209%、平年比382%でした。体長測定から、8月以降は0歳魚(平成23年生まれ)を漁獲していたと考えられました。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)の漁獲量は28.2トンで、前年比145%、平年比56%でした。

(3) 宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は16.2トンで、前年比727%、平年比116%でした。

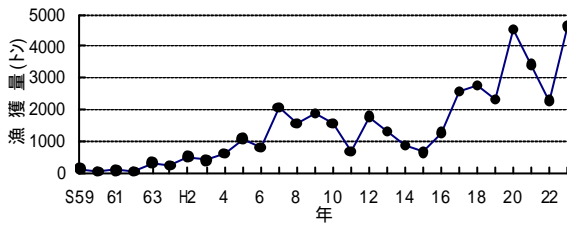


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

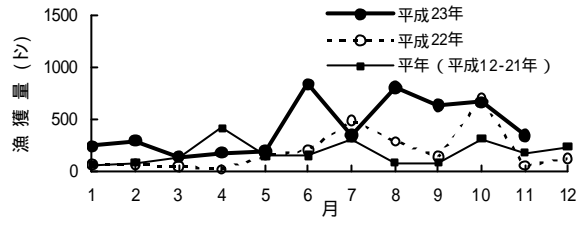


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

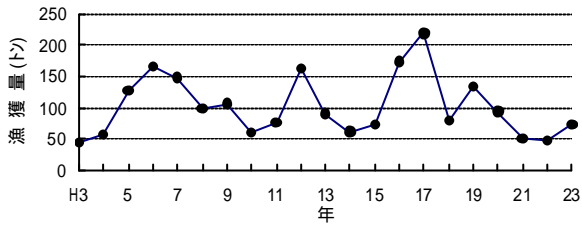


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（定置網・椎名：大型定置網）

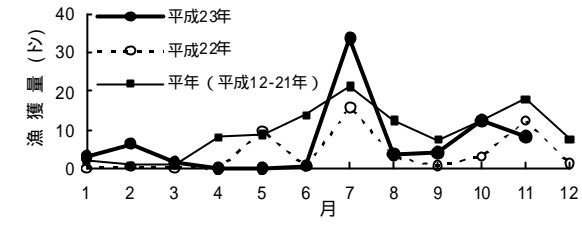


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（定置網・椎名：大型定置網）

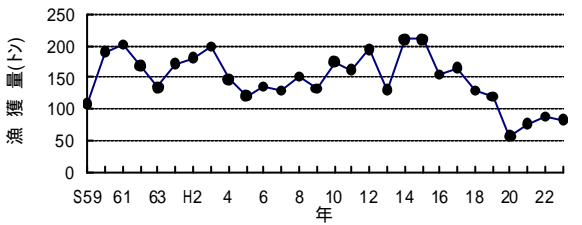


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

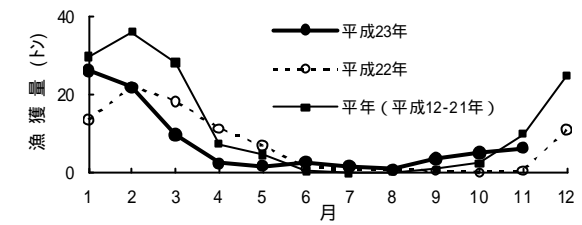


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は8,506トンで、前年同期比631%、平年比225%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による8～11月の総漁獲量は2,057トンで、前年比374%、平年比300%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、8～11月の総漁獲量が56.2トンで、前年比38%、平年比43%でした。

### 【漁況予測（平成24年1～6月）】

(1) 漁獲対象：1歳魚（平成23年生まれ）主体に、期の後半には0歳魚（平成24年生まれ）も漁獲されます。

(2) 来遊水準：前年を上回ると考えられます。

（参考）前年（平成23年）1～6月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,855.5トン

定置網（窪津・椎名合計）：11.8トン

多鈎釣魚（宇佐漁協）：62.2 トン

説明：

ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向にあります。本県においては、平成23年下半期の漁況経過から、今期の主体となる1歳魚（平成23年生まれ）の来遊状況が良いことから、前年を上回る来遊と考えられます。

## VI シラス

### 【漁況経過（平成23年8～11月）】

#### 1 高知県

機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による漁獲量は256.1トンを、前年比183%、平年比229%でした。魚種組成はカタクチイワシが主体でした。

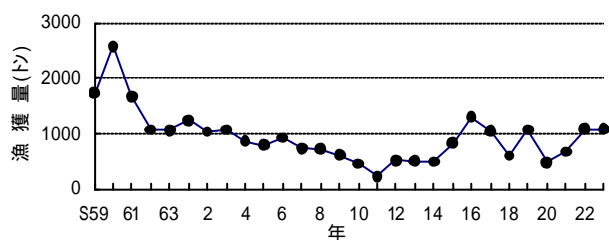


図 シラス漁獲量の推移  
（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

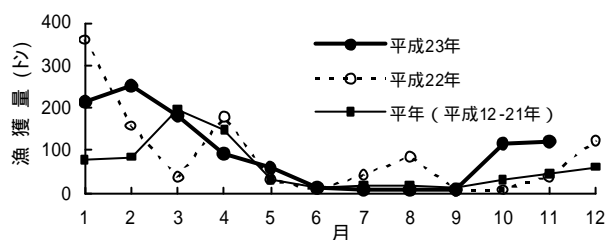


図 シラス月別漁獲量の推移  
（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

#### 2 周辺各県の経過

大分県：佐伯湾における8～11月の漁獲量は0.4トンを、前年比2.5%、平年比0.3%でした。

徳島県：紀伊水道内における8～10月の漁獲量は1,067トンを、前年比140%でした。

### 【漁況予測（平成24年1～6月）】

シラス漁況は不確実性が高く、特に3月以降の漁況を現時点で判断することは難しい状況です。しかし、シラス漁況に大きく影響する黒潮流路が、シラス漁にとって好適な型と予測されていることや、今期の主体となるマイワシ、ウルメイワシ親魚の来遊状況が良いと予測されることから、前年並から上回る来遊と推測されます。